

にんにく栽培方法

植え付け9月～10月

1 畑の準備

植え付け2週間前に苦土石灰を1㎡あたり100gまいてよく耕しておきます。
1週間前には1㎡あたり堆肥3kgと化成肥料150gをまいてよく混ぜておき、高さ5cmほどの高畝を作っておきます。
マルチ栽培の場合は追肥が難しいので、元肥に肥料成分がゆっくり溶け出す緩行性肥料を多めに施します。

3 追肥

芽が伸びてきた時期の11月とこれから育っていく翌春の3月の2回、化成肥料を株間にひとつまみぐらい施します。
ニンニクは春先からチツとカリ成分の吸収が多くなるので、チツとカリ成分を多く含む肥料がよいといわれていますが、化成肥料でもよいです。

追肥の化成肥料や有機質肥料は軽く土と軽く混ぜます
マルチ栽培の場合は、マルチの穴のすきまから少しずつ化成肥料を与えます。

5 収穫

茎葉が3分の2ぐらい枯れてから、晴天の日に収穫します。適期をすぎるとニンニクの球割れが発生して、球の色艶も悪くなり、品質が低下します。
5月下旬～6月

ニンニクの株元を持って引き抜きます。葉と根を切り、日陰で2～3日間干しておきます。
そのあとは網袋に入れ、風通しのよい日陰にニンニクを保存しておきます。
または茎葉を1/3ほど切り落とし、10本程度を一束にして、陽の当たらないように棒がけをして乾燥させます。

2 植え方

ニンニクの種球は一片づつ分けておきます。
植え付けるニンニクは、大きな鱗片ほど生育・収量が良いので大きいものを選びますが、その種類の中であまりにも大きい場合は育っていく過程で分球もしやすくなるようです。
条間、株間ともに15cmの幅にして植えつけます。
(余裕があれば条間は20～25cmぐらいで)
地面からニンニクの上部の先端までの深さは約4～5cm程度にして、発根部を下にします。
冷涼地はやや深めに植え付けします。

4 管理

株元からわき芽が出たときはかき取ります。
ニンニクなどの根菜、イモ類は、花芽の育ちを抑えとう立ちさせないようにします。
とう立ちしてきたら花蕾を摘み取ります。
よく見ていないと見過ごしてしまいます。
とう立ちをしたら早いうちに摘み取ることで肥大を促進させます。

ニンニクの株元を持って中心にでた「とう」を引き抜きます。またはハサミなどで切り取ります。
とう立ちの若い茎は「ニンニクの芽」として利用してみるとおいしいです。
※不抽苔性といって、とう立ちしないニンニクの品種もあるようです。